ふくしまUDレター

2月号ーVol.3　2007.2.1

ふくしま型UDネットワーク形成促進事業
事業者：福島県
発行者：いわきNPOセンター

まちを探索すると見えてくるＵＤ　ー福島高専・齊藤研究室ー

福島工業高等専門学校、建設環境工学科講師の齊藤充弘先生は、平成14年に赴任して以来、安心、安全のまちづくりをテーマにユニバーサルデザインの研究に取り組んでいます。また、学内の齊藤研究室も、学生とともにいわきNPOセンターのUD事業に参画いただくなど、UDの勉強・研究に取り組んでおり、まちなかの現状調査、公園・公共施設の調査を実施し、今年度は通学路の調査を実施しています。

学生の研究成果は、街なか情報館平サロンや都市計画学会、卒業研究発表会などで発表しており、平成17年には、いわきの中心市街地本町通りの調査結果を発表した「まちを探索すると見えてくるUD」が全国高専デザインコンペティションの地域交流部門で優秀賞を受賞しました。

また「UDをまちづくりに取り入れるには、何が問題か。」をテーマにした卒業研究では、福島県、静岡県、熊本県の市町村を対象にアンケートを実施し、UDの現状を調査しました。

この調査では、UD先進地といわれる静岡県でさえ、浜松市や静岡市等の人口規模の大きな都市以外の多くの市町村ではUDの理解が進んでいないことが分りました。

齊藤先生は、「今後とも、UDの研究を進め、地域のUDに対する理解を広めていき、誰もが住み良いまちづくりに繋げていきたい。」と話して下さいました。

車いすマークの駐車場が使えない！　ー富岡町身体障がい者福祉会ー

富岡町身体障がい者福祉会の半谷克弘さんは、公共施設やショッピングセンター等に設置されている、車いすマークが描かれた駐車場を適正に利用する運動を展開しています。

この駐車場は、ハートビル法と人にやさしいまちづくり条例でその設置基準が定められていますが、利用に関しては、あくまでモラルやマナーなど「ひとの心のあり方」に委ねられています。そのため、健常者の安易な駐車が見受けられ、障がい者の方が利用できないという切実な状況が生じています。

同会では、問題解決にはルール作りが必要と考え、地元ショッピングセンターと連携して、利用対象者の範囲を妊婦や高齢者まで広げた「駐車優先証システム」を考案しました。そして、平成16年10月よりこのシステムを運用しながら、啓発運動とともにアンケート調査や利用実態調査を続けています。

その結果、利用環境はかなり改善され、駐車の心配がなくなり障がい者が買い物に出かける回数が増えたなどの調査結果も得ています。

同会の活動は、人にやさしいまちづくりを目指す県内初の取り組みとして注目されています。さらに効果を上げるためには地域社会の協力、行政の早期対応などが望まれます。

ユニバーサルサービス実践研修を開催　－福島県－

福島県は、「ユニバーサルサービス実践研修」を1月19日（金）福島県いわき合同庁舎にて開催しました。

全国ユニバーサルサービス連絡協議会の田中啓一さんの講義で、視覚障がい者、聴覚障がい者、肢体不自由者、高齢者、妊婦の現在おかれている状況や接し方など、ユニバーサルサービスの基礎知識を学び、その後、高齢者や障がい者の疑似体験を通して、ユニバーサルサービスの必要性を学びました。

疑似体験では、高齢者疑似体験、ブラインドウォーク（視覚障がい疑似体験）、車いすの3つのグループに別れ、高齢者疑似体験では、特殊な装具を付け階段を昇り降りして高齢者の身体状況を体験し、ブラインドウォークでは視覚障がい者の対応、誘導の方法を学び、車いすでは坂や段差を利用して車いすの基本的な操作方法を学びました。

ユニバーサルサービスとは、あらゆる人に対して公平なサービスを提供することです。いくら建物がユニバーサルデザインであっても、人の対応が悪ければ、不愉快な思いをします。費用がかからず、誰でも、今からでも活用できるユニバーサルサービスを実践してみませんか。

介助輸送タクシー　－あんしん虎SUN－

国内初のベンツによる介助輸送タクシー「あんしん虎SUN」は、東北運輸局より患者等輸送限定の認可を受け平成17年4月に開業し、交通弱者の方の生活の足として市内を走っています。

ベンツを選んだ理由は、コストよりもお客様の安全・安心を最優先に考えて強靭な車体であること、車いすの複数台利用、家族の同乗を考えて広い車内空間を確保しリラックスできることです。

また、寝たきりの方もそのまま移送出来るよう背もたれを倒すとフラットになるストレッチャー兼用の車いすを常設したり、車いす乗車時には急勾配のスロープではなく、安心・安全に乗車できる収納式の水平リフトを備えたりと工夫をしています。

料金は大型タクシー料金のみで、一般のタクシー会社の介護車両を利用するより格安の料金で利用でき、ヘルパー2級の資格を持つ代表の虎口紀元さんがやさしくサポートします。救急車で搬送された方の帰りの足などにも利用され、料金の安さと対応の良さでリピーターも増えています。

虎口さんは、「時間に関係なく呼び出される、連絡先のカードを駅やショッピングセンターに置いているので、イタズラ電話がかかってきて行ったら誰もいない等の苦労はあるが、出来るだけ安い料金で、皆様の足代わりになることを喜びとしています。そして、社会のニーズに応えていきたい。」と話して下さいました。

連絡先：いわきNPOセンター
〒970-8043 いわき市中央台鹿島1-22-3
E-mail:info@iwakinpocenter.org
Tel.0246-29-4600　Fax.0246-46-2721
URL:http://www.iwakinpocenter.org/UD/